

神奈川県立小田原養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和4年度神奈川県立小田原養護学校第3回学校運営協議会	
開催日時	令和4年11月15日(火) 10:00~12:00	
開催場所	神奈川県立小田原養護学校 応接室	
出席者	委員8名(うち欠席2名) 事務局8名	
次回開催予定日	令和5年2月24日(金) 10:00~12:00	
問合せ先	小田原養護学校湯河原校舎 副校長 鈴木 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>出席委員 会場参加：3名、リモート参加：3名 欠席委員 2名</p> <p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回目の協議会となります。秋も深まってきました。学校の様子をご報告いただき、意見交換できればと思っております。 <p>2 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモート参加の3名の方、よろしく申し上げます。明日から3日間、学習発表会となっています。これまでは文化祭として、地域の方をお招きして発表していましたが、コロナ対策として保護者に向けた発表会を実施することにしました。 ・ここにきて、コロナウイルス陽性者、濃厚接触者、体調不良者が児童生徒、教員が増えてきています。 ・本日の中間評価は、我々(教員)自身の評価と保護者の評価です。委員の皆様の意見をいただきたいです。 <p>3 学校評価部会</p> <p>1、中間評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副校長より資料を基に説明する。別紙、学校評価参照。 <p>各学部</p> <p>1-① 教育課程編成、授業改善</p>	

	<p>中B 研究授業を通して、生徒の課題や目標ごとにグループを分けて授業を行い、授業改善につながった。</p> <p>中A 3年間を見通した年間計画の作成中。まだ完成していないので評価は低い。</p> <p>1-② ICTの活用</p> <p>高B ICTを用いてライブ中継を行うことにより、全校集会や安全上の制限のある授業に全生徒が参加できるようになった。</p> <p>3つの柱、3観点について資料を基に説明する。</p> <p>2-① 専門職、教育相談担当との連携</p> <p>大井分教室 課題を抱える生徒について、支援連携部、心理士、児童相談所などと連携して支援を行った。</p> <p>2-② 個別教育計画、キャリアパスポート</p> <p>小B 年度初めに丁寧な引継ぎを行うことができた。評価高い。</p> <p>高A キャリアパスポートについて課題がある。評価低い。</p> <p>3-① キャリア教育、シチズンシップ教育</p> <p>高A 7月に模擬投票を実施した。シチズンシップ教育の全体計画を基に計画的に取り組むことができた。</p> <p>大井分教室 大井町役場より投票箱等を借りて、計画的にシチズンシップ教育を実施できた。</p> <p>4-① 地域との学習</p> <p>高A 夏季休業中に予定していた城北工業との交流はコロナウイルスの流行で中止になった。</p> <p>湯河原 地域の小中学校との交流を予定している。</p> <p>4-② 三つの学びの場の連携</p> <p>高A 修学旅行、模擬投票を小田原校舎、湯河原校舎合同で実施した。</p> <p>5-① 感染予防、防災教育</p> <p>高A 感染症対策について、学部全体で細かく確認しながら進めることができた。</p> <p>湯河原 B部門の2階への避難訓練に取り組んでいる。</p> <p>5-② 事故・不祥事防止</p> <p>小A 事故やけがの防止について、学部全体で応援や体制を考えていく。</p>
--	--

	<p>校務グループ</p> <p>1-① 教育課程編成、授業改善 指導・研究 各学部で校内研究に取り組み、授業改善に努めている。</p> <p>1-② ICT の活用 教務・教務 儀式的行事ではリモート参加を進めた。</p> <p>2-① 専門職、教育相談担当との連携 教務・自立活動 専門職の PT、心理士が日常的に相談しやすい環境を作っている。 指導部・児童生徒指導 いじめ防止アンケート等を通して、全体で指導に当たることができた。 支援連携・医療的ケア 関係機関と連携して、呼吸、酸素、抱っこ、緊急対応の研修を行った。</p> <p>3-② 保護者に対する進路情報や福祉制度情報の提供 勤務・自立活動 教員のニーズに合わせた自立活動に関する研修を実施した。</p> <p>4-② 三つの学びの場の連携 儀式的行事の際、オンラインで小田原、湯河原、大井を結んで情報を共有することができた。</p> <p>5-① 感染予防、防災教育 総務・スクールバス バス会社と協力して感染予防対策を実施した。</p> <p>5-② 事故・不祥事防止 総務・給食事務 確認不足により給食費が引き落としできないことがあった。 総務・私費会計 ネットバンキング初年度で、うまく引き落としできない案件があったが、総括教諭中心に対応し解決できた。</p> <p>保護者アンケートの集計結果の報告 評価の平均 0.1 ポイントほど下がっているところがある。地域との協働についてわからないが多い。理由として、コロナの影響と保護者に見えづらいところがあると思われる。</p> <p>2、学校の状況について ・パワーポイント資料(ホームページの写真)を使って説明。</p>
--	--

- ・湯河原校舎 商工会婦人部の湯河原駅の座布団の手入れを行っている。
- ・校長より 地域との交流については、西湘高校との交流(演奏会)や公開授業を今年は実施できる予定。
- ・コロナウイルスの影響がある中、高等部の現場実習は施設・企業ともに今年は順調に進んでいる。医療的ケアのある児童生徒の通学支援について、スクールバス1台に看護師が乗車している。福祉車両による通学支援は、使える環境はできているが契約には至っていない。
- ・高等部の通学支援で、マイクロバスが配置されている。学校のスクールバス利用について、整理が課題。

3、意見交換

- きめ細やかな資料作成ありがとうございます。様々な創意工夫のもと取り組んでいる様子がわかった。保護者アンケートもほぼ横ばい。中間評価の課題と改善策に書いてあることについて、引き続き取り組んでいけばよいと思う。医療的ケア児の支援の充実。昨年9月に医療的ケア児支援法ができた。自治体の責務・努力義務について示されている。官民共同でやっていければよい。可能であれば、法律や県支援センターにつぶさに動向をキャッチしていただき、共有する機会があればよい。湯河原のハロウィンイベント、素晴らしい取り組み。福祉分野でも啓発イベントを計画している。小田原養護も参加についてぜひご検討をお願いします。
- 資料がきめ細やかに記載されているので、理解が深まった。
質問 3つの柱、3観点について。主体的に取り組む態度とは、具体的にいったいどのようなことを指すのか。
⇒研究授業等を通して、主体的に取り組む態度の評価。肢体部門では、対象をじっと見ている、手を伸ばすなど、知的部門では、できなくてもやろうとする様子、繰り返すことによってできるようになるなどの様子を評価している。
- 要望(意見) 保護者アンケートは良い結果が出ている反面、地域との協働については0(わからない)を選択して

人が多い。伝えていく取り組みを検討してください。
⇒居住地交流、コロナで地域との行事、交流が中止になってしまっている。

UMECO 作品展は開催。

こういった状況を報告していく。保護者に向けては支援連携部便り（だよりん）やホームページで引き続き発信していく。

●質問 ネットバンキングやチャットの使用等働き方改革の取り組みが出たが、他に働き方改革について取り組みがあれば教えてください。

⇒ネットバンキングについて、これまで現金の取り扱いの負担が大きかった。引き落としによる集金で、領収書を担当が作成する必要がなくなった。口座の移動等、不慣れな部分はあるが一定の結果は出せたと思う。

⇒出席簿について、パソコン上で扱えるようにした。

毎朝、ネットワークで本校、分教室、小田原校舎をつないで打ち合わせをしている。

⇒水曜、給料日はノー残業デーとしている。

勤務時間管理システムでそれぞれが自分の残業時間を把握できるようにしている。

学校業務サポーターが教員でなくてもできる業務を行っている。

夏休み中、日直が巡回後の放送するようになった。

●一番気になるのが地域との連携。支援級での受け入れが増えている。養護学校による小中への支援はありがたい。地域の学校が変わってきたという、実際の手ごたえがあったら教えてほしい。

医療的ケア児 ほうあんでも増えてきた。毎年いる印象がある。そういう人たちの支援も地域と連携していけたらよい。

⇒幼・小・中・高へ職員を派遣して相談するなどの取り組み。

多くの学校から依頼を受け、コーディネーターを中心に組み組んでいる。教育委員会で相談を把握している市町もある。

研修会の形をとっているところもある。具体的には、肢体不自由級、病弱級の立ち上げに際して、研修会の依頼があった。また、聞こえに課題のある子どもの支援に関しては、ろう学校と連携して研修を行った。

教育相談のしおりを配布していて、その中に学校でのケース例や相談連絡先を示している。

⇒湯河原町の小学校には4つの支援級がある。湯河原校舎から職員を派遣している。

●委員の皆様の見解や質問に対し、先生方が説明されたことでより学校の取り組みへの理解が深まった。

①小田原養護学校は県西の地にあり、多くの市町を学区として持ちながら、湯河原校舎、大井分教室もあり、規模も大きい。子どもの実態も多様。大きな総合的な学校である。

そのような学校でありつつ、中間評価を見ると、多彩な視点で評価されている。大きな学校だが、細やかな視点で取り組んでいられる。これからもそういう部分をpushしながらやってほしい。

②具体的な意見・質問の中で、1行の評価が肉付けされて見えてきた。校長の話にもあった日直の放送では、きっと毎日違う声が聞こえてくる、人柄やそういうものが感じられるのいいなと思います。

●質問 キャリア・パスポートとはどういうものなのか？

⇒キャリア教育についての記録を、本来は1人1冊小中高と積み重ねていくもの。小田原養護では、特別支援学校の児童生徒の実態に合った書式を探っている過程。

ここから休憩後、部会会議

学校運営協議会

1 各部会の報告

○防災部会

・災害時の緊急受け入れについて、小田原市と結んでいる協定書の内容の確認をした。内容について対面で確認できたことで、避難所になったときのベースとなるもの、地域と

のつながりを広げていくこと、万が一のときのマンパワーなど協定書は書かれていないことについても確認できた。

- ・湯河原校舎では、県と国からの補助を受けながら太陽光発電と蓄電池を配備した。普段使いや防災にも使える。

○切れ目ない支援部会

- ・縦の連携 就学前から卒業後まで。園から小に引き継ぐときに、引継ぎ内容が大事なところにしまってあって目にしない先生もいる。一人ひとりにファイルを作るなど、引継ぎの仕方の工夫。

- ・横の連携 教育、福祉、医療が垣根を取っ払って連携することで、一貫した支援ができる。

医療的ケアのある児童・生徒の学校に通う権利には、地域のフォローアップが大切。小田原養護の役割が大きいのではないか。情報をこちらから聞かないと教えてくれないことがある。学校が他機関との連携に慣れていないこともある。互いの良さを生かしていく。

○まとめ

- ・校長より

前半の中間評価、後半の部会ありがとうございました。

防災部会は欠席者が多かったがありがとうございました。

切れ目ない支援部会、縦のつながりについては、フォーマルなもので有効につながっているか。

太陽の門で工夫していただいている書式、学校と合わさって使っていけばいいのではないかと個人的に思っている。

いろいろな意見をいただいた。学校として改善していきたい。子どもたちを中心として、主体として取り組みを進めていく。

- ・会長より

皆様の意見に対する学校から回答によって、学校の今を理解できた。

次回は、年度のまとめとなります。委員の皆様からの意見を受けて、取り組みを進めてください。